

# まんさく

第260号

発行  
特別養護老人ホーム光寿苑  
まんさく編集委員会  
和賀郡西和賀町湯本30-76-1  
TEL 0197-84-2526  
koujhu@fancy.ocn.ne.jp  
題字 元理事長 太田 祖 電

※関連記事ク頁掲載!



～沢内中学校全校生徒の皆さん、真剣に受講して下さいありがとうございます♪～



こちらは沢内小学校5～6年生の前での熱演!【12月1日】

町内3つの小中学校で伝える時間  
間を頂いた介護の豊かな世界観  
皆さんの感想で最も多かったの  
が、「介護のイメージが変わっ  
た」"苦学もあるが楽しくてス  
テキな仕事"等の声。介護の新  
さくは「感謝・希望・関係を生  
きる」等、次世代に繋がった♡

光寿苑職員も真剣に演じました♪  
**介護の魅力を伝えるに  
沢内中学校に参上!**  
〔令和2年11月11日〕

# お年寄りの暮しのよりよい事を探し続けます

【生活】「⑤介護部門…せせらぎ」 ☆小泉岳央☆

法人キーワード	2020年度共通のキーワードは『観る』	
2020年度上半期のイメージ	テーマ	3つの『待つ(=観る)』
	理想像	目標 ① 3つの『待つ(=観る)』の実践
	具体的な取組み (いつ、何を、どのように)	①お年寄りがやり遂げようとしているのを『待つ』 〔不必要な介護をしない〕 ②お年寄りが動き出そうとしているのを『待つ』 〔先回り介護をしない〕 ③ついつい口出したくなってしまいうけれど、一呼吸『待つ』 〔素早く全体の状況を観る〕



2020年度上半期検証	<p>『目標①について』</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) ユニット全体で取り組めた…という状況には至らなかったと思う。</li> <li>2) 全体の職員数が少ない中で、ショートの利用者数を抑えつつ、他ユニットのヘルプに回れる体制を確保しなければならない状況にあった。…というのが、全体での士気の盛り上がりには欠けた主だった要因だと思う。</li> <li>3) ジグソーパズルをやっている場面等ではお年寄り同士が助け合っているの、見守るだけで敢えて間に合わなくても良い関係性が生まれている。 ⇒必要な部分に介入し、より良好な関係に発展するような関わり方が大事になってくるのではないかと。</li> <li>4) ただ待っていれば良い…という事ではないと思うし、待ち過ぎれば良くない結果に繋がる事もあると思う。相手のお年寄りに対して、介助者側の意図がある程度伝わっていないと“やってもらえない”という悪い印象に繋がりが兼ねない。 ⇒こちらの意図を理解して頂けるよう、適宜その旨をお伝えし、相互理解の元に進めていけるよう努めていく。</li> <li>5) 逆の視点から言えば、利用者が少ないという事は、1人1人のお年寄りをゆっくり観る時間が増えたという事なので、其々の人柄をより深く知る事に繋がったと言える。</li> </ol> <p>【結果目標】 上半期と同じ目標で下半期も臨みたい。</p>
-------------	--



2020年度最終的イメージ	テーマ	3つの『待つ(=観る)』
	理想像	目標 ① 3つの『待つ(=観る)』の実践
	具体的な取組み (いつ、何を、どのように)	①お年寄りがやり遂げようとしているのを『待つ』 〔不必要な介護をしない〕 ②お年寄りが動き出そうとしているのを『待つ』 〔先回り介護をしない〕 ③ついつい口出したくなってしまいうけれど、一呼吸『待つ』 〔素早く全体の状況を観る〕  ※下半期を迎え、改めてこれらの行動指針をユニットの重点に置いている事を意識し、1人1人の介助が必要な部分とそうではない部分の情報共有に努め、1年を通して実践の成果が検証できるように取り組んでいく。



# コロナ禍と人手不足という苦難が続く中でも

【生活】「①生活・ケアマネ部門」 ☆細川るみ子、高橋健☆

法人キーワード		2020年度共通のキーワードは『観る』	
2020年度上半期のイメージ	テーマ	観て観ぬふりせず『観て聴いて関わる』	
	理想像	目標 ①	目標 ②
		①お年寄りをよく観て、心と体の変化に気づける。	②お年寄りの暮らしのつなぎ役として、お年寄りのご家族の想いを実現できる様はたらき掛ける。
具体的な取組み (いつ、何を、どのように)	①待てるケア・見守れるケア・尊厳あるケアを心掛ける。 ⇒せかさず、ゆったりとした生活リズムを 〔通年〕 ②表情をしっかりと観る。 ⇒各部署と連携し、変化に気づき対応していく。 〔通年〕	①お年寄りのご家族の声を聴き、各ユニット職員間と共有し対応ができる。 〔通年〕 ②願いを引き出し、連携しながら実現できる。 ⇒“〇〇が食べたい” “〇〇に行きたい”等 〔通年〕	



2020年度上半期検証	<p>『目標①について』 ⇒人員不足のため、介護のサポートに入る機会が多くなり、お年寄りを“良く観る”機会は多くなった。しかし、日々の忙しさに飲まれて、個別的なケアやゆったりとした生活づくりということが考えられないまま過ごしてしまった。</p> <p>『目標②について』 ⇒コロナ禍で面会制限が続き、ご家族との距離がかつてないほど出来てしまった期間だった。少しずつ制限が解かれて来てはいるが、遠方のご家族の面会はまだまだ叶わない状況。お年寄り・ご家族の不安な気持ちに寄り添い、近況報告の方法を考えながら、連絡を密にしていこうにしたい。</p> <p>【結果目標】 上半期と同じ目標で下半期も臨みたい。</p>
-------------	--



2020年度の最終的イメージ	テーマ	観て観ぬふりせず『観て聴いて関わる』	
	理想像	目標 ①	目標 ②
		①お年寄りをよく観て、心と体の変化に気づける。	②お年寄りの暮らしのつなぎ役として、お年寄りのご家族の想いを実現できる様はたらき掛ける。
具体的な取組み (いつ、何を、どのように)	①待てるケア・見守れるケア・尊厳あるケアを心掛ける。 ⇒せかさず、ゆったりとした生活リズムを！ 〔通年〕 ②表情をしっかりと観る。 ⇒各部署と連携し、変化に気づき対応していく。 〔通年〕	①お年寄りのご家族の声を聴き、各ユニット職員間と共有し対応ができる。 〔通年〕 ②願いを引き出し、連携しながら実現できる。 ⇒“〇〇が食べたい” “〇〇に行きたい”等 〔通年〕	

恥ずかしがり屋…でも曲がかかると歌姫に



佐々木キワさん【93歳】

会話の中で時折、冗談を交えて話され、その場を和ませる等してくれました。歌も上手でしたね。息子さんの顔を見るととびきりの笑顔。キワさんの笑顔、とても好きでした。ありがとうございました。

《佐々木 瞭》

『今生より往く』

報恩講勤修しました 11月26日

～密を避けるために1階と2階其々でお参りを勤めました～



「南無、南無…」自身体が自由な内は必要のない参拜。年を重ね、様々な事が思う様にできなくなった状況に身を置いてこそ、「南無（お任せする）」純粋な境地に目が覚めるのかも知れない。おかげさまで。



# 想... 災害を捉える

\*\*\*福島の今を拝聴します\*\*\*

## 『陽は朝を連れてくる』… 相馬市 八幡朋行さん

3.11から9年9カ月…。コロナ禍、気持ちも中々晴れない今ではありますが、今回も連載中の八幡朋行様（相馬市）より、光を感じさせられる投稿を頂きました。

### 陽は朝を連れてくる

コロナ禍を受けて世間では、BC、ACDという造語がつつやかれていきます。勿論、BCは西暦紀元前、ACは西暦紀元後です。この言葉を借りて、「ビフォーコロナ、アフターコロナ」と読み替え、コロナが発生した前後では、異なる社会生活になったとの受けとめです。

コロナ禍で突きつけられたものにより、見直すべき現代社会の闇については反省しつつ、ビフォーコロナ、アフターコロナから「G」のトロトロの加速以外にも冷静な対応を模索すべきでしょう。

そもそも仏教徒の私は、キリストの誕生年を紀元とする西暦に、いざや抵抗感もあります。念仏者にとって一大事となるビフォーアフターは、阿弥陀如来の摂取の光りに包まれてある私、つまり阿弥陀如来の智慧の光明に出遇えたか否かです。であれば、光明（COMYORU）に出遇えた事実の前後を「BC、AC」とする人生にしたいものです。

さらに親鸞聖人は、光明への気

づきから開かれる世界を「本願の大智海」と「群生海」と表現され、智慧と一切衆生を同じ「海」に譬えて領いておられます。

震災後、原発事故の影響により、相馬漁港では試験操業が続ぎ、出荷制限を除いた魚介類については、放射性物質の検査を実施し、安全確認を行っています。

その相馬で漁師をしておられる方を訪ねた時、穏やかな海を見渡しながら、

「まだまだだべし、ハア！」

と吐露された言葉が忘れられませんでした。私は最初、「海の復興はまだまだ先だ」という意味で「おっし

やったように受けとっていました。

しかし、大海原に船を出し、もまれ、培ってこられた方だと思えば、それは、「オラカや考えはまだまだ小せえ！」「辛い日々

だけんぢよも、まだまだ何とせねば！」と、海の大きさ・豊かさを

知る人だからこその決心であり、

親鸞聖人の「海」の受け止めにも

通いると感服しました。海から昇る陽に照らされてきた漁師の詞は、

簡潔で冷静な指標、舵取りです。

### 八幡朋行

#### 松川十二景より「松川浦」（版画：倉本信之）

東日本大震災の津波被害を受けた、被害相馬市の東部にある松川浦は、万葉集に詠まれる名勝で、風光明媚な景観が広がり「小松島」と評され日本百景、福島県立公園にも指定されています。

貞享5（1688）年に、相馬中村藩第5代藩主相馬昌胤公は「松川十二景」として選び出し、狩野派の絵師に描かせ、時の東山天皇から勅許を受け、天皇からは各名所に公卿作の和歌が添えられました。

平成8年に、棟方志功に師事したことのある相馬絵画研究所主宰倉本信之氏（相馬正西寺門徒）が、松川十二景を版画で表現しました。





☆市外局番☆  
 (0197)  
 81 1313 (ひなたぼっこ)  
 81 1616 (湖畔の宿)  
 82 3939 (FAX共通)

小規模多機能ホーム「ひなたぼっこ」  
 住宅型有料老人ホーム「湖畔の宿」

※今月の登録者の方々 18 名様です♪

# 辺りはすっかり冬支度…「ひなたぼっこの日常」



①地区サロンに役場出前講座



②ドライブがてら外食♪



③皮むきはお手のもの

## 第4回『運営推進会議』(11月24日)

※外郡委員9名出席

① 利用者下さんの利用がないのはどうしてか?  
 ② 現在、A病院に薬の調合の関係で入院中でした。  
 ③ Nさんも利用がない様だが? 職1 粉瘤の手術のため入院し10月はありませんでした。が、今は退院し通っています。  
 ④ 湖畔の宿入居判定委員会(外部委員1名出席)を設置し、第三者が入る事で公平性の中で入居順位が確定していく流れができました。  
 ⑤ 入居希望が多数の場合、本人もそうだが希望している家族等から、どうしてウチのばっちゃんじゃな

いんだ!」と聞かれた時も、委員会にて決めた経緯を説明できれば納得して頂ける。しかも点数が付いていれば、第三者にも説明がつくのでいい事だと思おう。  
 ⑥ 判断基準シートの各項目に点数が埋まっていない人も居るが? 職1 全て情報が集められなかったのですが、特に重要な事項については点数化でき、その中で点数が高かった方々に絞って検討できました。  
 ⑦ 介護度5の人の申込みがあった場合は? 職1 入居して数年後に介護度5になった人はいる。特養等勧めている。

おかげでプレゼントがきました

### 寄贈

- ★ 佐々木 和夫 様 [前郷]
- ★ 佐々木 圭子 様 [前郷]
- ☆ 佐藤 里美子 様 [大沓]
- ☆ 高橋 幸一 様 [大波]
- ☆ 高橋 るり子 様 [大波]
- ☆ 石川 洵 様 [上野々]
- ☆ 羽柴 光郎 様 [上野々]
- ☆ 高橋 達子 様 [大野]
- ☆ 菅原 康悦 様 [滝沢市]
- ☆ 北島 正敏 様 [仙台市]

### ボラ・訪問

- 夕食介助お手伝い (11/1~11/30)
- ★ 匿名様 [湯本]
- 突撃!?窓越し友愛訪問 (12/2)
- ★ 湯本保育園園児様 … いっぱい
- 散髪 (11/3)
- ☆ 藤田陽子様 [川尻]
- 運営会議 (11/24)
- ☆ 運営推進会議委員様 … 9名

今日も大寿会へのサポート



第59回

不定期シリーズ

# 地域の窓

【沢内中学校3年生から涙が出そうなステキな贈り物です♡】



必光寿苑職員全員頂きました♡

今年、新型コロナウイルス感染症の影響により、学校の行事を始め、多くの活動が縮小や中止となりました。これまでとは違った生活様式となり、当たり前のことが当たり前にできることに感謝する気持ちが大切だと感じました。そんな中、愛媛県から始まったこの活動を知り、私たちにできることがあると思いました。そして、私たちは次の二つの願いを込めてリボンを製作しました。

- ・地域、家庭、学校における差別や偏見をしない、させない、許さない
- ・医療従事者、介護福祉関係者を含めた地域、家族への感謝の気持ちを持つ

この二つの願いを込めたりボンを是非身に付けるか飾ってくれるとうれしく思います。

令和二年 西和賀町立沢内中学校第三学年



ただいま、おかえりって  
言いあえるまでに

## シトラスリボン運動

Citrus Ribbon PROJECT

## 第84回

第85回目は、今年度より家族会事務局長に就任されました藤原輝夫氏より一筆頂戴致しました。



# 元気です！家族会♪

母トシ子のこと① 藤原輝夫

私の母トシ子は、入居前年の平成30年9月23日から光寿苑さんのショートステイでお世話になっていたが、令和元年9月12日からは入居させて頂き、お蔭様で穏やかな日々を送っている。トシ子は80才を過ぎても元気に畑仕事をしていたが、平成27年秋の大根洗いの時、無理をして重いのを持って腰を痛めてから不自由になった。私も手伝って大根を振る軽トラックで運ぶ、家の前で洗っていたのだが、夕方になり用事があったので、母に「明日にしよう」と言っていて出かけた時の事だった。のだが、母は片づけてしまったかっただけ、止めずに続けた拳匂、コンテナいっぱいの大根を吊上げようとして腰を痛めてしまったらしい。

それから、家の中も外も押し車で歩く生活となり、デイサービスにも通い始めた。その後、平成28年6月10日に老人クラブ「ふれあい」から帰った後、「何も分からなくなった」と言い、13日夜には衣類等を風呂敷に包み「家に帰るよ」と言い出した。「ここが家だよ」と言っても聞き入れず、母の言う家とは生まれた家の事のようにだった。

家の事のようにだった。



